

令和3年度 北海道清水高等学校 学校評価(自己評価、学校関係者評価)

令和3年3月31日  
北海道清水高等学校

項目	番号	評価の観点	分掌・年次としての取組(改善点・推進点)	自己評価	学校関係者評価
教育目標	1	教育目標は教育活動全体の指標として適切である	・教育目標の実現に向け、育成を目指す資質・能力を意識した教育活動を行うことができていた。 ・次年度以降、本校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーを踏まえて生徒の資質・能力を育成する教育活動を充実させる必要がある。	3.4	3.4
	2	教育目標は教職員の考えや保護者の要望を反映したものになっている		3.3	
重点目標	3	重点目標は当面する学校課題解決を図る目標になっている	・育成を目指す資質・能力を、特別活動や教科指導をはじめ教育活動全体において意識しながら取り組んでいた。 ・各分掌、年次が改善・解決すべき課題を明確にし、網羅的でなく焦点を明確にした重点目標を設定し評価する必要がある。	3.2	3.1
	4	育成を目指す資質・能力が分掌や年次及び教科の計画や取組に生かされている		3.1	
総務	5	校務の円滑な運営と効率化が図り、教育効果を高める条件整備に努めている	・年間での仕事をいつ行うのかを計画し、その内容について昨年度行った資料を残す。 ・PTA活動は今年も思うように行えなかったが、資料配布、郵便でのやり取りなどで行った。 ・中学校への訪問、一日体験入学(今年度から施設見学、部活動体験、授業体験を1日ずつ)などを行い生徒募集に努めた。 ・コンピュータの導入が、北海道からだけでなく多岐にわたり、どこが管理の対象かわからない。 ・ホームページ作成ソフトの操作が遅く、今の時代に合ったコンピュータの導入が必要。	3.2	3.2
	6	家庭、中学校、関係団体、及び地域社会との連携を深め、PTA活動の活性化に努めている		3.0	
	7	本校総合学科への理解が得られるよう積極的な広報活動に努め、効果的な生徒募集を行っている		3.2	
	8	校内のICT実践の機器管理と有効運用の実践を行っている		3.0	
	9	ホームページ等を通して学校の取組を外部へアピールする実践を行っている		2.9	
教務	10	学習意欲の高揚を図っている	・新学習指導要領、新系列、BYOD等、令和4年度から様々な事柄が開始されるので、それに伴い、改めて各教員が授業を改善し、魅力ある授業を実施できるようにする。観点別学習状況の評価方法についても、校内研修等で互いに知識を深め、指導と評価の一体化をさらに進めていく。 ・総合的な探究の時間では、生徒個々のテーマによる探究活動の充実が図れるよう、校内の指導体制を確立し、カリキュラムマネジメントを意識した展開ができるようにする。 ・Classiを効果的に利用して、生徒個々が成長を感じ取れるようにポートフォリオを充実させ、定期考査や基礎力診断テスト、朝学習コンクール等、学習に関わる行事に向けての学習意欲の向上を図るとともに、保護者への情報共有も努める。	3.1	3.5
	11	時間割の円滑な運用に努めている		3.3	
	12	成績処理・帳票システムの円滑な運用に努めている		3.5	
	13	教務に関わる研修体制の充実を図っている		3.3	
	14	図書館の利用度を高め、読書習慣と利用マナーの向上を図っている		3.1	
生徒指導	15	規範意識・倫理観の醸成を図っている(いじめへの対応も含む)	・15～18の項目を分掌だけの取り組みだけでは、改善できないと考える。特に17と18には、「あまり思わない」と評価された方も多し。評価を上げるためには、先生方への取り組みの提示方法を新しいものとし、全教員が理解し実践できるものとしなければいけない。次年度へ引き継ぎ改善したい。教員自身がその取り組みを意識し、いかに生徒へ実践・指導した実感を持つよう工夫することが大切と考える。次年度は、最低でも分掌内の評価を上げられるよう取り組んでいきたい。	3.1	3.2
	16	生徒の実態を把握し、よりよい生活習慣を育成している		3.0	
	17	全教職員の共通実践のもとに現状の生徒指導レベルの維持継続を図っている		2.7	
	18	社会で通用する人間教育を推進している		2.9	
進路指導	19	HR活動、産業社会と人間、総合的な探究の時間における進路学習を通して、生徒が将来の生き方を自発的・主体的に考え、目的意識を持って学校生活を送れるように指導・援助がされている	・産・社・総探が年次主導で行われており、進路指導部が関わる機会が少ない。次年度は計画作成から進路部員が関わり、分掌としての考え方を伝えていく。 ・繁忙期には事務的な作業ばかりになってしまうので、時間に余裕がある時期に、生徒に進路を考えさせる取組を企画したい。	3.0	3.5
	20	HR担任・年次団・保護者との連携による組織的な指導を行い、生徒が自己の目標・個性・適性・能力等に応じて目標を設定し、自発的・主体的に進路を決定するための指導・援助を行っている		3.0	
1年次	21	基本的な生活習慣、正しい判断力と行動力を身に付けさせている	・内部評価と全体評価に大きな差はないことから、1年次回の自己満足ではなく、他からも同じく評価していただけたことが良かった。 ・特に高評価をいただいた生活習慣について、中だるみの2年次とさせないようこれからも注意深く指導していく。 ・学習については、授業規律の徹底とあわせ、受け身の姿勢から自主的な取り組みへと成長させる。 ・各種行事や委員会活動、清掃活動など、本当によく取り組んでいると思うが、全体評価でも認められるようさらに頑張らせたい。 ・1年次は生活と学習に重点が置かれ、進路に対する取り組みが少ない。今後、進路について考えさせる内容から、生徒個々の希望に合わせた具体的な取り組みに重点を置いていく。	3.5	3.5
	22	学習環境を向上させ、学習に取り組む姿勢と基礎学力を定着させるための指導・援助を行っている		3.3	
	23	特別活動をおとして、仕事に率先して取り組む力と責任感を養っている		3.2	
	24	進路目標の実現に向けて、キャリアサポートプログラムに沿った個々の能力を育成し、社会性を育成している		3.1	
	25	年次をはじめ、教科・分掌等、組織的に生徒に関わり、生徒理解を深め、保護者との信頼関係を築いている		3.3	
2年次	26	規律を重んじ、社会人としての基本的習慣を身に付けさせている	・担任、年次、生徒指導部と連携を図り清水高校の生活のルール、規律を常に理解させ、正しい基本的習慣を組織的に指導し、徹底させる。 ・指導の計画、指導の目標、評価の観点を共通の理解を図り、指導にあたる。 ・インターンシップが実施できない場合の、具体的な代替について考えるうえで、事前指導、時期、先方の都合等調整と対応が求められる。	2.3	3.3
	27	「総合的な探究の時間」を通して、主体的に物事を捉えて活動する力、探究する力を養っている		2.9	
	28	インターンシップに課題意識を持って取り組み、社会性と個々の能力の育成を図っている		2.1	
3年次	29	すべきことを自ら探して見付け、積極的に取り組もうとする主体性を備えた社会人としての基礎力を育成している	内部評価に比して全体評価が全ての項目で上回っていた。これは、年次内で考えているよりも、認められているということでありたいことである。特に、「教科・分掌・家庭との共通認識のもと、生徒の個性に合った生徒指導と進路指導を行っている」の項目については、大きな差があった。各家庭との連携を電話やClassi等を利用して実施してきた結果が現れたと思われる。他年次にも、ぜひClassiによる保護者への発信を勧めたい。	3.1	3.3
	30	目的をしっかりと認識し、常に意識しながら行動する実行力を育成している		3.0	
	31	最高年次としての規範意識を持ち、生徒相互が切磋琢磨できる活気ある学校生活を送らせている		3.2	
	32	教科・分掌・家庭との共通認識のもと、生徒の個性に合った生徒指導と進路指導を行っている		3.1	